

島の暮らし：豊年祭と八月踊り

毎年恒例のお祭りは、奄美大島の各集落における大イベントで、旧暦（太陰暦）に基づいて行われます。最も代表的かつ楽しみにされている行事のひとつは、その年の収穫を祝い、翌年の豊穰を祈願するため、毎年晩夏から初秋にかけての時期に開催される「豊年祭」です。大抵の祭りの催しは、集落の広場で行われます。集落の広場には通常土俵があります。あらゆる年齢の男たちの行列が、集落内を通して、これから行う相撲を集落の神々に奉納する神聖な場所「ミヤー」に向かいます。その後、行列は土俵に向かい、土俵では集落の人々の歓声の中で相撲の取組が行われます。集落の男たちはだれでも自分の技と力を試すことができます。踊りなどのその他の儀式は集落によって異なります。昔、この島では山がちな内陸部の地形によって集落同士の交流が限られていたため、各集落で独自の儀式や神事が発展しました。

多くの場合、豊年祭は八月踊りと呼ばれる収穫を祝う快活な踊りで締めくくられます。これらの踊りは、しばしば旧暦に基づいて夏の異なる日に行われます。八月踊りでは男女が輪になり、それぞれの集落独自のメロディー、歌詞、振り付けに合わせて踊ります。唄は地元の方言で歌われ、チジンという太鼓と甲高い指笛に伴奏されます。奄美大島の北部では、踊りが進むにつれてテンポが上がっていきませんが、南部ではテンポは変わらないまま踊られます。かつては、踊り手たちは庭や空き地に立ち寄って踊りながら集落を巡っていましたが、現在ではこの行事は通常集落の広場で行われ、人々は踊りの合間に楽しむ食べ物や飲み物を持ち寄ります。

島では年間を通じて他の祭りも開催されています。興味のある方は観光センターで行事予定について問い合わせしてみましょう。